



①：「保育所」で子どもたちと遊び、保育士体験／②：「市役所」に税金を納めに来た市民／③：「大学」では先生になり、英会話も教える
 ／④：「レストラン」でお客さんの注文を聞く店員／⑤：「市民」登録をした小学生に説明をするハローワーク職員



取材ルポ

働いて！遊んで！職業体験！

子どもたちがつくる都市「ミニみらい」

伊奈中学校（富田良一校長）で12月23日～25日の3日間、伊奈中学校区の小中一貫教育の中で行うキャリア教育として「ミニみらい」を初開催した。

「ミニみらい」とは、伊奈中学校を小さな「つくばみらい市」に見立てて、児童生徒たちがさまざまな仕事を体験するイベントだ。「ミニみらい」には、現実の都市と同様、さまざまなお店や業種が存在する。市役所、ハローワーク、保育所、銀行、病院、放送局、飲食店など多岐にわたり、児童生徒たちはその中から自分のやりたい「仕事」を選び、働く。働いて得たお金（ミラ）は、一部を税金として納めた後、「ミニみらい」の中で買い物や遊びに使うことができる。

取材したこの日は、すでに延べ500人を超える「市民」の登録があり、さまざまな仕事に生き生きとした表情で従事する小中学生の姿があった。

ミニみらい市役所のとらにがある「ハローワーク」で「市民」に仕事を紹介していた篠塚隼佑さん（伊奈中・2年生）は「保育所や商店などサービス業が人気」と話す。自身も「サツ

カー教室で小学生に教えたり、ハローワークで仕事を紹介したりするのが楽しかった」と話し、笑顔を見せてくれた。「大学」で働いていた齋藤香乃さん（伊奈中・2年生）は「小学生に工作などを教えてあげるのが楽しかった。自分で働いたお金は商店やレストランで使った。親からもらうのとは感じが違って新鮮だった」と充実した表情で話してくれた。

「レストラン」で友人と食事をしていた四家新太さん（伊奈中・2年生）は「交通整理や放送局の仕事に就いていた」と言い「自分で働いたお金でモノが買えるので達成感がある」と満足した様子で話してくれた。

ミニみらいを企画・開催した伊奈中学校の富田良一校長は実施のきっかけを「子どもたちの自主性を伸ばし、学校でできない体験をさせてあげたかった」と話す。また、実際に開催してみても「想定よりも多くの皆さんに来ていただいた。活動を通じて、生徒たちが自分で考えて工夫をするようになってきたのを感じる。来年以降も継続し、将来的には市内のほかの中学校区にも広げていけたら」と話し、今後を期待を寄せた。